

第5学年1組 国語科学習指導案

平成21年6月24日(水)

授業者 教諭 T1: 山口 賢次

T2: 中村 敬子

児童数 33名

本提案のキーワード

文章の構成、筆者の表現の工夫(論理展開)、表現活動、要旨

本提案の主張点

説明的文章において、筆者が何をどのように述べているかを読み取る力を身に付けるために、筆者の論の展開を意識しながら、読み取ったことを自分なりに表現する力を伸ばす。そのために、対話活動を取り入れ、読み取った事柄を論理的に再構成して説明し合う場づくりを工夫する。

授業課題

[1単位時間の指導計画に位置づけた対話活動の具体化]

読み取った内容を確認するための対話活動とそれを論理的に説明するための対話活動を取り入れることで、段落に書かれた内容を正しく理解し、表現する力を伸ばす。

[説明的文章の活用と整備の具体化]

段落の要旨を正しく読み取るための、話題にすべき重要な語句を探る。文章を構成する各段落の論理的役割を探る。

[個人課題] ワークシート、情報機器、TTの効果的な活用

1 これまでの指導経過と課題

本学級の児童は今までに、話しことば領域の学習を基盤とした対話活動を継続して学習してきている。その対話活動は、ペアやグループにおけるインタビュー活動などである。自分の考えを対話によって表現することについては、意欲や技能に個人差がある。説明文の読解にあたり、読み取った内容を論理的に説明する方法を明確に示すことにより、対話を手段として段落内容や文章の要旨についての理解を深めることができ、読書読解領域の指導目標をよりよく達成できると考える。

説明文については、第4学年の「ヤドカリとイソギンチャク」で段落と段落の関係を読み取る学習において、段落内容の理解を深めるための対話活動を経験している。

2 単元とその指導計画

(1)単元と教材

単元名 文章の仕組みを考えて、書かれていることを読み取る

教材名 「動物の体」(東京書籍5年上)

(2)教材の活用のしかたと指導事項

本教材は、「序論 - 本論1 - 本論2 - 本論3 - 本論4 - 結論」の構成になっている。本論1～3では、動物の外見のつくりにもみる環境への適応について述べるために、寒い地方と暑い地方にすむ動物の具体例を対比させている。本論4では暑い地方の動物を例に、体内の仕組みと環境への適応について述べている。

また、各段落においては、説得性のある論の展開となるよう、一般的事実・理由・具体例の順で示す表現の工夫がしてある。

指導に当たっては、段落の要旨をつかむために、寒い地方・暑い地方の対比構造に

目を向け、筆者の論の展開を意識させる。また、段落内容を正しく読み取るために、動物の体のつくりと気候との関係を図に表すなどの活動を行い、読み取ったことを相互に確かめるための対話活動の場を設ける。

さらに、段落ごとに読み取った内容を事実・理由・結論に整理して相手に説明する対話活動の場を設ける。これらの言語活動を通じて、段落ごとに読み取った内容を要約する力や全体の要旨を書いて表現する力を伸ばす。

(3)指導目標

重要な語句に着目し、段落相互の構成を考えたりさせることで、文章構成への理解を深めさせる。(読むこと)

読み取ったことの要旨をとらえ、事実・理由・結論に整理して説明し合うことができるようにする。(話すこと・聞くこと)

段落の要旨を書いたり、自分の意見を整理して書いたりできるようにする。(書くこと)

動物の体の仕組みや動物の自然環境への適応についての関心をもたせ、進んで情報を集めたり、それらに関する本を読もうとしたりする意欲を高める。(関心・意欲)

3 指導計画

全8時間(本時5/8)

次	時	学習者の意識	主な学習活動()・指導上の留意点()
一	1	ヒトコブラクダの体の仕組みってすごいな	教材文を通読し初発の感想を交流する。 初めて知ったこと等について感想を出し合ったり書いたりする。
二	2	なぜこの動物が取り上げられているのだろう	形式段落ごとの内容をとりえ、文章全体を六つの意味段落としてとえる。 例として挙げられている動物は、何について説明するために取り上げられているかを押さえる。
	3	動物の体形は、すんでいる土地の気候によって違うんだな	書かれている内容を読み取り、形式段落相互の関係を押さえる。 動物の体形と気候との関係について、事実・理由・具体例の順に論が展開されていることを押さえる。
	4	動物の体格も、すんでいる土地の気候によって違うんだな	動物の体格と気候の関係について事実・具体例・理由の順に、論が展開されていることを押さえる。
	5 (本時)	毛皮の生え方や役割も、気候によって違うんだな	毛皮と気候との関係について論の展開を押さえながら、気候による役目の違いを読み取る。
	6	体内の仕組みも環境に適応できるようにできているんだな	体内の仕組みと環境への適応について論の展開を押さえながら、環境に適応できる理由を読み取る。
	7	筆者が言いたかったことは、こういうことだ	それぞれの意味段落の要点を押さえ、全体の組み立てを構成図に表す。

			文章全体の要旨をまとめ、発表し合う。
三	8	自然環境や動物についての本を読んでみよう	興味を持った動物や自然について書かれた本を読む。

4 本時の指導

(1) 本時の目標

学習目標 筆者はなぜ「すぐれた毛皮」といっているのか説明しよう。

指導目標 形式段落相互の関係を理解し、毛皮の役目の違いを事実・理由・結論に整理して説明することができるようにする。

(2) 対話活動のねらい

対話活動 寒い地方と暑い地方にすむ動物の毛の生え方の違いと役目を確かめるための1対1の対話

対話活動 事実・理由・結論を押さえて、毛皮の役目の違いを説明するための1対1の対話

(3) 本時の展開

過程	学習活動	指導上の留意点()と評価()
つかむ	1 前時の学習を想起する。	T1とT2が対話形式で、前時の学習内容を想起させる。 毛皮と気候との関係【段落10～13】を読み取り、説明することを確かめる。
	2 本時のめあてをつかむ。 筆者はなぜ「すぐれた毛皮」といっているのか説明しよう。	
深める	3 段落10～13から、寒い地方・暑い地方にすむ動物の毛皮の特ちょうを読み取る。 ・生え方の違いを図にかく。 ・役目の違いを図や言葉でかく。 対話活動 ・読み取ったことを図で示しながら、1対1のペア対話により説明し合う。	体の表面(皮ふ)と外気との境界となる部分が毛皮であることを押さえる。 毛の生え方を文中から見つけさせ線を引かせる。 ・体から直角に立つように ・ <u>密生した毛</u> におおわれている 毛皮の役目を文中から見つけさせ線を引かせる。 ・ <u>空気の層が作られ、外気の温度のえいきょうを直接受け</u> ないように・・・ ・ <u>強い太陽熱から身を守り、かんそうした空気によって、水分が体の表面からうばわれるのを防ぐ</u> ・・・ 文中に線を引くことができる。 「毛の生え方」「どんな役目を果たしているのか」を説明することを指示する。 ・外気の温度の影響を防ぐ <u>防寒</u> の役目 ・強い太陽熱や乾燥を防ぐ <u>防曇</u> の役目
	4 読み取った内容を全体で確かめ、論理的に相手に説明する。	児童の発表を取り上げながら、整理する。

	<p>・毛の生え方や役目の違いについてわかったことを発表する。</p> <p>対話活動</p> <p>・事実 - 理由 - 結論の順序を押さえて、なぜ「すぐれた毛皮」といえるのかを1対1のペア対話により説明し合う。</p> <p>・事実 - 理由 - 結論をワークシートにまとめる。</p> <p>・A：寒い地方の動物の毛皮がすぐれているわけを説明する</p> <p>・B：暑い地方の動物の毛皮がすぐれているわけを説明する</p> <p>・A、B交代して行う</p>	<p>T1とT2が対話形式により、対話活動のモデルを示す。</p> <p>・具体的事実は何か</p> <p>・それが役に立つ理由は何か</p> <p>・結論は何か</p> <p>これまでの段落の読み取りで学んだ「しりとり説明」の手法を活用させる。カモシカは<u>直角に立った毛</u>をもっている。(事実)</p> <p><u>直角に立った毛は、外気の温度の影響を防ぐ。</u>(理由)</p> <p><u>外気の温度の影響を防ぐ</u>直角に立った毛は、寒い地方にすむカモシカの役に立っている。(結論)</p> <p>事実 - 理由 - 結論の順序を押さえて説明することができる。</p>
<p>まとめる</p>	<p>5 筆者の論の展開について考える。</p> <p>・寒い地方 暑い地方</p> <p>・ 一般的事実 具体例 理由</p> <p>一般的事実 具体例 理由</p> <p>6 学習を振り返り、次時の学習について知る。</p>	<p>事実・具体例・理由が述べられている段落をそれぞれ問い、各形式段落の働きを意識させる。</p> <p>段落13を一文ずつ分けて提示することにより、10、11、12段落と同じ論の展開となっていることを押さえる。</p> <p>次時は体の内部のつくりと環境への適応について読み取ることを知らせる。</p>

5 事後の授業研究会より

A 対話活動の具現化について

[対話活動]

- ・言葉に着目した対話活動では、言葉と絵(図)との関連が重要である。このことについて全体対話を行い、読み取った内容について質疑・賛成・反対の立場を明確にした発言を促せば、対話を深めることにつながったのではないか。

[対話活動]

- ・対話内容がお互いに事実・理由・結論を述べ合うだけで、いわば答えが決まっている。この方法で、読み取ったことを確かめる対話が成立するのか。
- ・ペア対話をインタビュー形式で行い、事実・理由・結論を聞き手が尋ね、話し手が論理的に答えていく方法もあったのではないか。
- ・対話活動を内容を読み取るための対話、対話活動を論理的に説明する対話と位置づければ、対話活動が内容読解の有効な手段となるのではないか。

B 説明的文章の活用と整備の具現化について

- ・段落内容の読解のための言葉へアプローチには、帰納的方法と演繹的方法があると考えられる。
- ・直角・密生・水分の言葉を押さえておいて、絵に描き、正しいか言葉と照合して確認する本時の方法は、帰納的であるといえる。メリットとしてパターン化しやすいので、対話の方法をつかませる目的としては適している。デメリットとして、はじめに言葉を押さえ過ぎると対話が深まらない。
- ・直角・密生・水分の絵を描かせてみて、検証していく方法もあり、演繹的といえる。対話によって、根拠を本文に求めていく対話活動が想定される。デメリットとして、絵に表現する等、技能的に個人差が大きい場合に学習がスムーズにいかないであろう。
- ・重要語句については、事前に詳しく調べさせ、理解させておく。助詞にこだわらせることも大切。カモシカについては、「毛が直角に(方向)」、フェネックについては「毛が密生(密度)」と別の要素について述べられていることにも気をつける必要がある。
- ・対話の提示 一人調べ(自分の考えをもつ) 対話(練り合い)
- ・対話例「フェネックとニホンカモシカの毛皮のすぐれているところは何だろう」

C ワークシート・情報機器・T Tの活用

[ワークシート]

- ・ワークシートは、内容・構成の読み取りに適している。書き込む、線を引く、一覧性が高いなどの特性により、児童の能力差を埋めたり、学習課題の焦点化を図ることができる。
- ・ノートは、語句調べ、感想など、内容的に比較的易しい課題について書く作業するのに適している。ノート指導は必要である。
- ・書くことの基本スキルをそろえることが大切。視写など、児童が書くのと一緒に教師が板書するなどして、書く速さを鍛える。
- ・能力差に応じるには、少人数指導もよい。

[情報機器]

- ・スマートボードの長所は、視覚的な刺激や驚きがあること、直接画面に描けること、移動がしやすいことなど。作成した提示教材は、次年度に改善して活用しやすい。
- ・欠点として、場面が目の前から消える、文字が正確に書けない、長いテキストを表示するのに適さないなど。要約作業には向いていないのではないかと。
- ・電子黒板の描画タッチは、黒板に書くときとは勝手が異なるが、使いながら徐々に慣れる。
- ・プロジェクター、コンピュータ、ボードを設置するのに5分程度時間がかかるので、考慮に入れる。

[T T]

- ・担任がT 2の時、児童の抱えている課題が把握できる。
- ・T 1とT 2の対話モデルによる話題提示は、児童の目が輝く。
- ・打ち合わせは、単元全体について行っておけば、本時の前には極短い時間でも効果が大きい。
- ・特に支援が必要な児童に焦点を当てると、本時の学習展開が決定する。
- ・物語教材では、T 2が揺さぶりをかける発言により、児童の思考が深まる。